

労働環境改善で強いチーム作りの第一歩に

- 屋号・法人名等 はたらく 畑樂
- 氏名 安永眞理子(販売・企画・広報・労務・経理)
- 所在地 下関市
- 生産品目 季節の野菜 40品目100品種以上
(農薬・化学肥料不使用 露地栽培)
- 就農年 平成28年(UIターン 夫婦で新規就農)



ショッピングセンター内の
青果物売り場陳列棚

○経営改善のきっかけ

少量多品目の生産に取り組んでおり、調製・出荷に係る労力に課題を感じていた。また、主体的に考えて動けるスタッフを育成したいと考えていた。

○経営改善の取組内容

佐川友彦氏が講師を務めるセミナーに夫とともに参加して以下の取り組みを進めた。

(1) スタッフの労働環境改善

- ①スタッフの面談を行い、日頃思っている事や希望などをヒアリングした。
- ②貢献してくれるスタッフの時給をUPした。
- ③全員に野帳メモを支給し、日々の気づき等を記録してもらうようにした。
- ④人員を2人増員した。
- ⑤スタッフ懇談会を開催した。

(2) 販売

畑樂が独自に作成・管理している陳列棚(ショッピングセンターの青果物売り場内に設置)を月1回、定期的に掃除するようにした。

(3) 包装作業

多品目の野菜を取り扱っているため、その日収穫した野菜や出荷先に合わせて包装を変える必要があり、熟練スタッフと新人スタッフで包装作業のスピードに大きな差があった。包装作業の効率化、スピードアップを図るため、全員の作業風景を動画で複数品目撮影し、スタッフと一緒に動画を見て、意見交換を行った。

○経営改善の取組効果

(1) スタッフの労働環境改善

コロナ前はスタッフとのランチミーティングなどの懇談をよくやっていたが、ここ数年色々出来なかった。再び、スタッフの話を聞くことの大切さを意識するようになり、スタッフへのケアの気持ちがUP。強いチーム作りとしての第一歩となった。

(2) 販売

売場陳列棚の埃や汚れなどがなくなり、気持ちのよい売場となった。納品をスタッフに任せようになってから売場に行く事が減っていたが、定期的に行くようになったことで、問題点をきちんと把握でき、取引先とのコミュニケーションも復活した。

(3) 包装作業

作業風景を動画で客観的に見ることができ、新人スタッフが熟練スタッフからノウハウを学ぶ機会になった。また、身体の使い方や物の配置について、改めて全員が見直すことが出来た。体格や利き腕などの違いがあり、スピードアップする方法は一律に同じには出来ないが、スタッフ一人一人がスピードアップするためのヒントをつかむことが出来た。

○今後の経営改善への取組意向

現場で働いてくれるスタッフにも経営の改善点を見つけて貰えるよう、スタッフを育成していく。また、スタッフの働く環境を改善し、意思の疎通をしっかりと図り、一人一人が主体的に動く強いチーム作りを進めていきたい。